

研究・調査報告書

報告書番号	担当
294	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Evidence-based treatments for alcohol use disorders in adolescents. 根拠に基づいた、思春期におけるアルコール使用障害の治療法	
執筆者	
Deas D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pediatrics. 2008 Apr;121 Suppl 4:S348-54.	
キーワード	
思春期、アルコール使用障害、治療法、根拠に基づいた医療	
要 旨	
<p>思春期におけるアルコール利用の普及とその関連する結果によって、この集団における根拠に基づいた治療の必要性が叫ばれている。過去の10年間、思春期に特化し開発された根拠に基づいた様式によって、思春期のアルコール使用障害の治療において多大な発展がされた。本レビューでは、少なくとも1つ以上の様式を比較する対照治療のあるアウトカム研究で、治療状況をランダムに割りつけたもので、1990年-2004年の間に発表されたものについて議論する。家族ベースの介入やmotivational enhancement therapy (動機づけのインタビュー)、行動療法、認知行動療法とともに、限定的であるが薬物療法研究について議論する。全ての研究は思春期集団において使用の妥当性を検討した評価ツールを用いていた。全体的に思春期のアルコール治療の分野において大きな進歩があり、提示された治療法の様式は、十分に再現する可能性以上のものがある。</p>	